

問1 江戸時代の交通網において、中山道が果たした役割や特徴について述べた文として、最も適切なものを選択肢から選びなさい。 (2018年

群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 江戸から北上して白河に至る街道であり、東北地方の諸藩が参勤交代を行うための主要なルートとして利用された。 | 2. 徳川家康を祀る日光東照宮への参詣を主な目的として整備され、將軍自身が通行することもあった。 | 3. 江戸から甲府を経て下諏訪で中山道に合流する街道であり、江戸城の非常時の脱出路としての機能も持っていた。 | 4. 内陸を通るルートのため、大井川などの大きな河川による川止めの影響を受けにくく、安定した通行が可能であった。 |
|---|--|--|--|

問2 江戸時代の百姓一揆などで、指導者が誰であるかを特定されないように、参加者が署名を円形に書き連ねた文書を何というか。 (2023年

青森県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|--------|-----------|--------|
| 1. からかさ連判状 | 2. 目安箱 | 3. 慶安の御触書 | 4. 五人組 |
|------------|--------|-----------|--------|

問3 江戸時代、長崎を窓口として発展した「蘭学」に関連する記述として、ドイツ人医師のシーボルトが行った活動に該当するものはどれですか。 (2021年 京都府公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------|----------------------------|------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 日本で最初となる解剖書である『解体新書』を出版した。 | 2. 鳴滝塾を開き、医学や自然科学を日本人に教えた。 | 3. アメリカの艦隊を率いて浦賀に来航し、開国を迫った。 | 4. 下田に着任したアメリカ総領事として、日米修好通商条約を締結した。 |
|-------------------------------|----------------------------|------------------------------|-------------------------------------|

問4 江戸幕府の三代将軍徳川家光の時代に制度化された、大名が1年おきに領地と江戸を往復する「参勤交代」の主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1. 全国交通網を整備することで、大名による海外貿易を奨励するため | 2. 大名の領地経営を幕府が直接代行し、全国の検地を円滑に進めるため | 3. 大名に多額の旅費や滞在費を負担させることで経済力を削ぎ、幕府への反乱を防ぐため | 4. 江戸の進んだ文化を全国に広め、地方の生活水準を向上させるため |
|-----------------------------------|------------------------------------|--|-----------------------------------|

問5 江戸時代における「問屋制家内工業」から「工場制手工業（マニュファクチュア）」への変遷について、生産体制の変化という観点から説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 幕府が直接運営する公営工場での生産から、民間の問屋が農民を雇用して生産する形態へと変化した | 2. 武士が手内職として行っていた生産から、商人が賃金を払って農民を大規模に雇い入れる形態へと変化した | 3. 農民が自宅で個別に作業を行う形態から、資本家が労働者を1か所の工場に集めて分業で作業する形態へと変化した | 4. 鎖国による国内向けの少量生産から、開国に伴う機械を用いた大規模な輸出用生産へと変化した |
|--|---|---|--|

問6 江戸時代の貨幣政策に関する次の説明文の空欄にあてはまる内容の組み合わせとして、正しいものはどれですか。「1714年に発行された正徳小判は、1600年当時の慶長小判と同じ84.3%という高い金の含有率を持っていた。このように（X）ことは、（Y）」 (2019年 秋田県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|-------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. X：貨幣の質を下げる Y：金銀の海外流出を食い止め、国内の偏蓄を増やす | 2. X：貨幣の質を高める Y：幕府が改鑄による差益を得て、財政を潤す | 3. X：貨幣の質を下げる Y：貨幣の流通量を増やし、景気を刺激する | 4. X：貨幣の質を高める Y：貨幣の価値を安定させ、物価の上昇を抑える |
|--|-------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|

問7 江戸幕府が長崎奉行に対し、外国船の来航禁止や日本人の海外渡航禁止を命じた一連の政策（鎖国体制の形成）について、その背景にある幕府の意図を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2021年 東京都公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 清（中国）からの軍事的侵攻を防ぐため、長崎以外のすべての港を封鎖して防衛を固めるため | 2. 貿易の利益を幕府が独占し、キリスト教の広まりを抑えることで、幕府の支配力を強化するため | 3. 諸大名に自由な海外貿易を奨励し、その収益に対して重い税を課すことで幕府の財政を潤すため | 4. 鎖国によって海外との情報の往来を完全に遮断し、日本の独自の文化のみを発展させるため |
|---|--|--|--|

問8 鎌倉時代から江戸時代初期にかけての、日本と海外の交流や人物の活動について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2018年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 江戸時代初期、幕府による朱印船貿易が盛になると、山田長政のように東南アジアへ渡り、アユタヤの日本町で活躍する者が現れた。 | 2. 江戸時代初期の鎖国体制が完成した直後、間宮林蔵が幕府の命を受けてキリスト教を再布教するためにヨーロッパへと渡った。 | 3. 鎌倉時代には、フランシスコ・ザビエルが宋から日本へ渡り、武士の精神的支えとなった禅宗を各地で広めた。 | 4. 室町時代の終わりごろ、栄西や道元は幕府の許可を得てタイのシャムへ渡り、現地に日本町を建設して貿易を主導した。 |
|---|--|---|---|

問9 江戸時代、幕府が大名を統制する目的で行った参勤交代は、当時の交通や経済に大きな影響を与えました。この制度が社会に与えた影響の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 岡山県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 参勤交代の負担を減らすために享保の改革が行われ、大名が江戸に住む必要がなくなったため、街道や宿場は衰退した | 2. 大名が多額の費用をかけて江戸と領地を往復したため、五街道の整備が進み、宿場を中心に物資の流通が盛んになった | 3. 幕府が大名の領地経営を助けるために資金を配分した結果、全国に国分寺が建立され、宗教文化が中心の街道が作られた | 4. 海外との貿易を奨励するために参勤交代が利用され、町人文化の影響を受けた大名が積極的に外国へ渡航するようになった |
|--|--|---|--|

問10 江戸時代に親しまれた文学作品のうち、十返舎一九が活躍した時代と同じ時期に成立し、同じ文化圏に分類される作品として正しいものを選びなさい。 (2021年 大阪府公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1. 松尾芭蕉が各地を旅して詠んだ紀行文『おくのほそ道』 | 2. 近松門左衛門が人形浄瑠璃のために書いた『曽根崎心中』 | 3. 滝沢馬琴による長編小説である『南総里見八犬伝』 | 4. 井原西鶴が町人の経済活動を描いた『日本永代蔵』 |
|------------------------------|-------------------------------|----------------------------|----------------------------|

問11 飛鳥時代から平安時代初期にかけて、日本は中国の進んだ制度や文化を学ぶために使節を派遣していましたが、894年に菅原道真の建議により派遣が停止されました。その背景となる理由として最も適切なものはどれですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. 平清盛が宋との私貿易を重視し、正式な国交を不要と考えたため | 2. 倭寇の活動が活発化し、東シナ海の航行が困難になったため | 3. 明を中心とする冊封体制に組み込まれることを避けるため | 4. 唐の衰退と内乱により、危険を冒して派遣する意義が薄れたため |
|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|

問12 江戸幕府は、いわゆる「鎖国」体制下においても、四つの窓口を通じて特定の国や地域との交流を続けていました。これらの窓口と、交流の相手国の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 三重県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------|--------------------|--------------------|----------------------|
| 1. 薩摩藩を窓口とした清（中国）との交流 | 2. 長崎を窓口としたロシアとの交流 | 3. 対馬藩を窓口とした朝鮮との交流 | 4. 松前藩を窓口としたオランダとの交流 |
|-----------------------|--------------------|--------------------|----------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 内陸を通るルートのため、大井川などの大きな河川による川止めの影響を受けにくく、安定した通行が可能であった。	中山道は木曽路とも呼ばれ、東海道の比べて距離が長く険しい峠道が多いものの、大きな河川を渡る箇所が少なかったため、天候による川止め（増水による通行止め）の影響を避けたい旅人や参勤交代の列に利用されました。選択肢にある白河に至る道は奥州道中、日光へ通じる道は日光道中、甲府を経由する道は甲州道中の説明です。
問2	答え 1 からかさ連判状	百姓一揆において、指導者（中心人物）が判明すると厳しく処罰される恐れがありました。そのため、署名を円形に並べることで始まりと終わりをなくし、誰が首謀者か分からないように工夫しました。これを傘を開いた形に見立てて「からかさ連判状（傘連判）」と呼びます。
問3	答え 2 鳴滝塾を開き、医学や自然科学を日本人に教えた。	シーボルトは医学だけでなく植物学などの自然科学を教授し、日本の学問の発展に寄りました。『解体新書』を出版したのは杉田玄白や前野良沢らであり、ペリーやハリスは幕末の外交交渉に関わった人物です。
問4	答え 3 大名に多額の旅費や滞在費を負担させることで経済力を削ぎ、幕府への反乱を防ぐため	参勤交代は、大名に江戸と領地を往復させ、さらに妻子を江戸に人質として住まわせる制度です。この制度により大名は多大な出費を強いられ、軍資金を蓄える余裕を奪われました。これにより、大名が幕府に反旗を翻すことを防ぐ政治的な狙いがありました。
問5	答え 3 農民が自宅で個別に作業を行う形態から、資本家が労働者を1か所の工場に集めて分業で作業する形態へと変化した	問屋制家内工業は各農家がバラバラに作業を行っていましたが、19世紀（江戸時代後期）になると、より効率的に大量の製品を作るため、地主や商人が工場を建設し、そこに労働者を集めて協力して作業させる工場制手工業（マニユファクチュア）が始まりました。これがさらに明治時代以降の産業革命へとつながっていきます。
問6	答え 4 X：貨幣の質を高める Y：貨幣の価値を安定させ、物価の上昇を抑える	新井白石による貨幣改革は、それ以前の「貨幣の質を落として幕府の利益を出す」方針から転換したものでした。1600年当時の水準まで金の割合を回復させた「質の良い小判」を流通させることで、上がり続けていた物価を抑制しようとしてしました。しかし、流通する貨幣の総量が減少したため、のちに経済の停滞を招く側面もありました。
問7	答え 2 貿易の利益を幕府が独占し、キリスト教の広まりを抑えることで、幕府の支配力を強化するため	江戸幕府の対外政策の目的は、大きく分けて「キリスト教の禁止」と「貿易の統制」の2点にあります。西国大名が貿易を通じて富強になることを防ぎ、幕府が長崎奉行を通じて貿易の利益を独占すること、そしてキリスト教を通じて海外勢力が日本国内の勢力と結びつくことを防ぐことが、幕藩体制を維持する上で不可欠でした。
問8	答え 1 江戸時代初期、幕府による朱印船貿易が盛になると、山田長政のように東南アジアへ渡り、アユタヤの日本町で活躍する者が現れた。	江戸時代初期、徳川家康が朱印状を発行して海外貿易を推奨したことで、日本人は東南アジアへ進出しました。その代表例が山田長政であり、タイのアユタヤ（シャム）で日本町のリーダーとして、また現地の官吏として活躍しました。栄西や道元が禅宗を伝えたのは鎌倉時代、ザビエルがキリスト教を伝えたのは16世紀の戦国時代であり、間宮林蔵の樺太探検は江戸時代後期の出来事です。それぞれの人物が活躍した時代と、その背景にある国際情勢（貿易の仕組みや宗教の伝来）を正しく結びつけることが重要です。
問9	答え 2 大名が多額の費用をかけて江戸と領地を往復したため、五街道の整備が進み、宿場を中心に物資の流通が盛んになった	参勤交代は、大名に軍役として江戸での奉仕を求めるものでしたが、その移動には多大な旅費と滞在費がかかり、各藩の財政を圧迫しました。一方で、大名行列が頻繁に往来することで、幕府が管理する五街道の整備が加速し、宿場では宿泊業や物流が活発になるなど、江戸を中心に全国を結ぶ交通・経済網が発達する大きな要因となりました。
問10	答え 3 滝沢馬琴による長編小説である『南総里見八犬伝』	十返舎一九が活躍した江戸時代後半の化政文化では、滑稽本のほかに、滝沢（曲亭）馬琴による『南総里見八犬伝』のような「読本（よみほん）」と呼ばれる長編小説も人気を集めました。近松門左衛門、井原西鶴、松尾芭蕉は、いずれも江戸時代前期の元禄文化を代表する人物であり、活躍した時代や文化の特徴が異なります。
問11	答え 4 唐の衰退と内乱により、危険を冒して派遣する意義が薄れたため	9世紀末、唐では黄巢の乱などの内乱が続き、国家としての力が衰退していました。菅原道真は、航海の危険性と唐の混乱を理由に遣唐使の派遣停止を建議し、これが認められました。これにより、それまでに輸入された大陸文化が日本風に消化され、国風文化が栄える契機となりました。
問12	答え 3 対馬藩を窓口とした朝鮮との交流	江戸幕府は、特定の地域を通じて対外関係を維持しました。対馬藩（宗氏）は朝鮮との間で国交を維持し、朝鮮通信使の来日にも関わりました。薩摩藩は琉球王国、松前藩はアイヌ、長崎は清とオランダがそれぞれ窓口となっていました。ロシアが日本に開国を求めて接近してくるのは江戸時代後期のことです。